

## 日本語要約

バングラデシュのチッタゴン丘陵地域では1990年代より頻回にマラリアのアウトブレイクが起きている。土地利用の変化や、薬剤耐性、保健医療体制の変化、社会経済状態および気象の変化などが可能性のある原因として挙げられているが、はっきりとしたことはわかっていない。また、同国においてマラリアと気象の関連を検討した研究はこれまでなされていない。本論文は同地域の1県における過去20年間の月別マラリア患者数と様々な気象・環境因子（降雨量、気温、湿度、ベンガル湾海面水温、エルニーニョ指数(NINO3)、Normalized difference vegetation index (NDVI))との関連について時系列解析をおこない検討した。Negative binomial regression modelを用いて相互に交絡の可能性のある気象因子を調整後、マラリア患者数と降雨量、気温、湿度、海面水温、NINO3のいずれも有意な関連を認めなかった。NDVIと患者数は有意な負の関連を認めた。他地域における過去の研究ではNDVIとマラリア患者数の正の関連が報告されているが、予想に反する本研究の結果は、同地域のベクター蚊が多様であることや蚊繁殖地の地形と関連している可能性を指摘した。今後、気象・環境因子とマラリア媒介蚊の関連について詳細な調査が望まれる。